

## 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

5学年を対象として行われた、令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の本校の状況についてお知らせします。

8種目の体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点でみると男子は全国平均点を上回り、女子は全国平均点を下回る結果となりました。

男子は8種目中4種目（上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び）で全国平均を上回りました。女子は8種目中2種目で（立ち幅跳び、ソフトボール投げ）全国平均を上回りました。一方、男子では、4種目（握力、シャトルラン、50m走、ソフトボール投げ）で、女子は8種目中6種目において、全国平均を下回る結果となっています。

質問紙からは、男子、女子ともに、運動が好きであることや運動が大切であること、体育の授業が好きと答えた児童の割合が全国を上回っています。このことは、中学校進学後の運動やスポーツへの取組意識からも同様の傾向が見られます。

また、朝食を毎日食べる割合は、女子は全国平均を上回っていますが、男子は下回るという結果となりました。

平日のテレビを見たりゲームをしたりする時間は、男女ともに全国よりも長い傾向が見られています。

成功体験や物事に粘り強く挑戦する姿勢については、全国平均と同様の結果となっています。

本校といたしましては、引き続き、適切な運動量を確保する体育科等の授業改善や体力向上コーナーの設置等をすすめるとともに、家庭や地域、関係機関と連携しながら、児童の生活習慣の見直しの働きかけを行いたいと考えております。

なお、本調査の結果につきましては、全国学力・学習状況調査の結果同様に「地域の学校教育の状況に関する説明責任」「学校・家庭・地域が連携して学校教育と家庭教育、地域の教育力の相互努力による体力向上の取組の一層の充実」という観点から、全国平均と本校の平均と比較したグラフを下記に示しました。

しかしながら、体力や運動能力等に関する調査では、地域や学校によって、学力に関する調査以上に「実施上の条件の差異」が見られることから、単に数値だけでは判断できないことをご理解いただきたいと考えております。

